

## 第 36 回日本自然災害学会学術講演会に参加しました(2017/9/27-28)

テーマ：災害科学

場所：アオーレ長岡（新潟県長岡市）

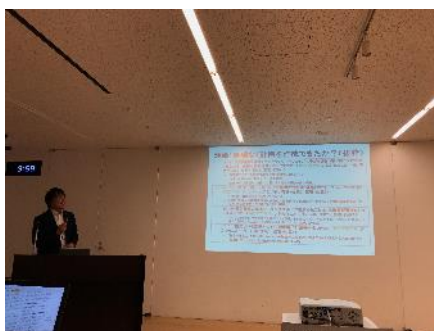
9月27日(水)～28日(木)の2日間、アオーレ長岡（新潟県長岡市）で日本自然災害学会が主催する「第36回日本自然災害学会学術講演会」が開催されました。同学会は、その名の通り、自然災害科学の研究の向上と発展につとめるとともに、防災・減災に資することを目的としている学会であり、自然災害に関するあらゆるジャンルのテーマを対象としています。年に1回、学術講演会が行われ、研究発表による情報共有や交流が行われています。当研究所からは、査読セッションで2件、一般セッションで6件の研究発表を行いました。査読付き論文セッションとは、同学会査読論文誌「自然災害科学」と同様な審査過程を得て、受理された論文について発表されるセッションであり、特別号として査読付き論文が発行される対象の発表になります。各発表者の講演題目等は次の通りです：

### 【査読付き論文セッション】

- 佐藤翔輔、今村文彦ら：効果的かつ無理のない地区防災計画の作成方法－宮城県石巻市と巨理町における実践と評価－
- 山崎麻里子、佐藤翔輔、マリ・エリザベスら：災害伝承施設に必要な要件の探索的分析－木籠メモリアルパークへの再訪者に対する質的調査をもとに－

### 【一般セッション】

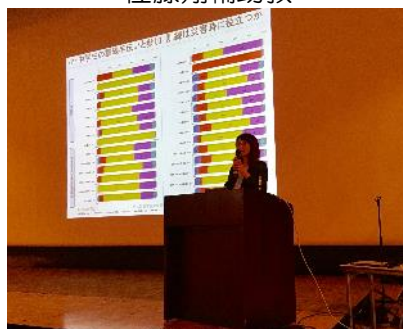
- 佐藤翔輔、今村文彦ら：2016年11月22日福島県沖地震に伴う津波避難の実態：石巻市と巨理町の住民を対象にした調査から
- 新家杏奈、佐藤翔輔、今村文彦ら：東松島市震災復興伝承館の利用実態と利用者ニーズの把握
- 小野寺洋友、佐藤翔輔：気仙沼市立階上中学校における地域と連携した防災教育の実践－真の「未来の防災戦士」の育成を目指して－
- 定池祐季：文化伝承と災害伝承の関連性に関する一考察－宮古島「ナーパイ」を例に－
- 保田真理、邑本俊亮、サッパシーアナワット、今村文彦：参加者の満足度に注目した避難（防災）訓練設計－仙台市長命ヶ丘連合町内会に於ける訓練満足度調査に着目して－
- 林晃大、山下啓、今村文彦：家屋被害実績に基づく海岸林の津波リスク減災効果に関する検討  
著者名は、筆頭者と研究所構成員のみ記載。下線は研究所構成員。



佐藤翔輔助教



定池祐季助教



保田真理助手



林晃大助手

文責：林晃大（寄附研究部門）